

第14回 重信川流域学識者会議

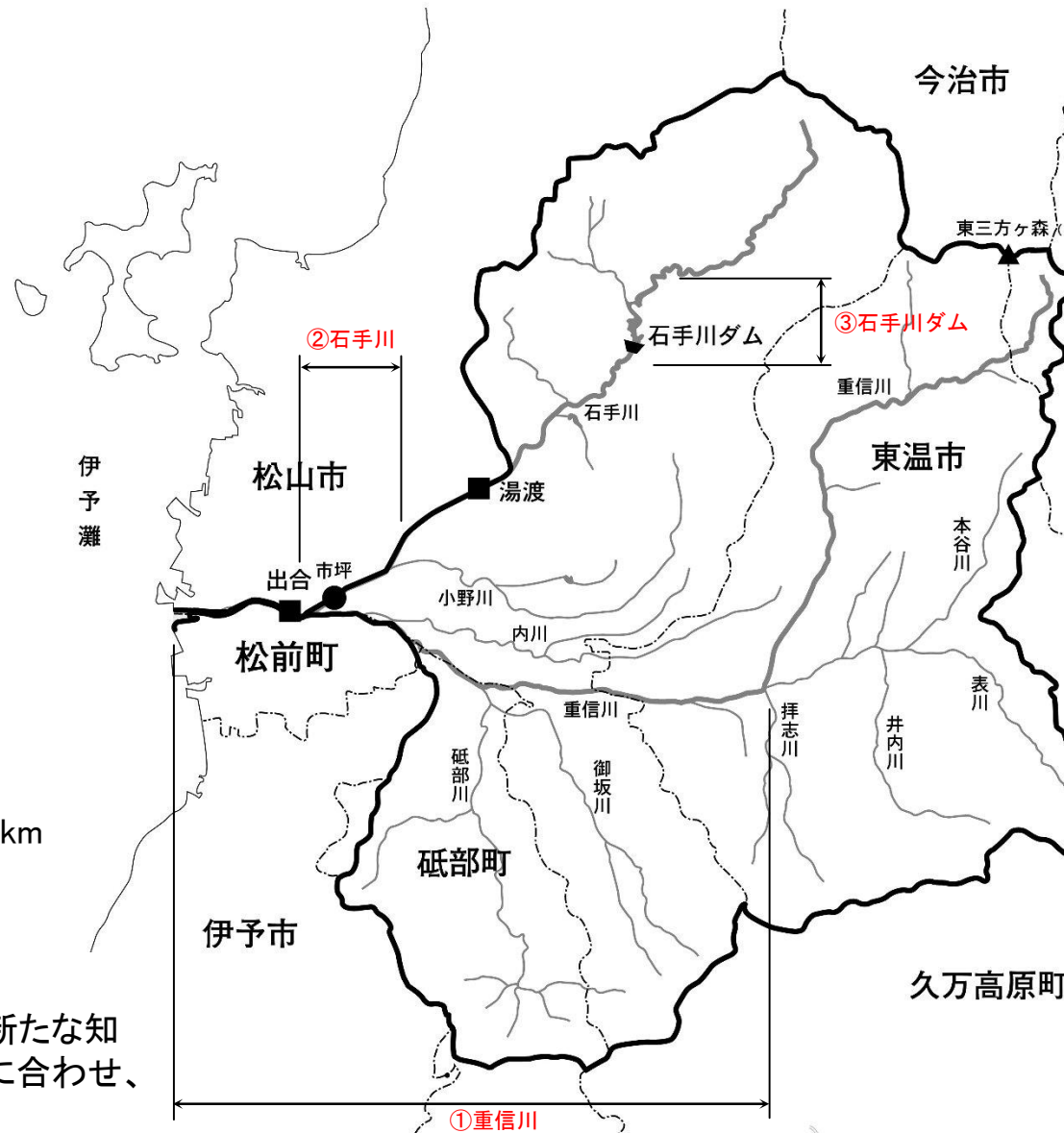
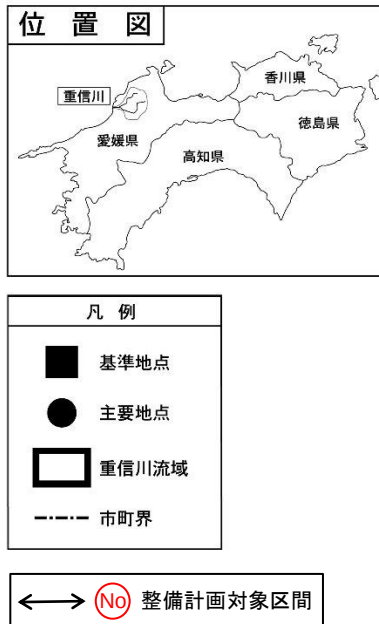
～重信川水系河川整備計画(国管理区間)の進捗～

令和7年3月6日

国土交通省 四国地方整備局

重信橋地点状況(平成29年9月18日洪水)

事業の進捗状況(重信川河川整備計画の対象)



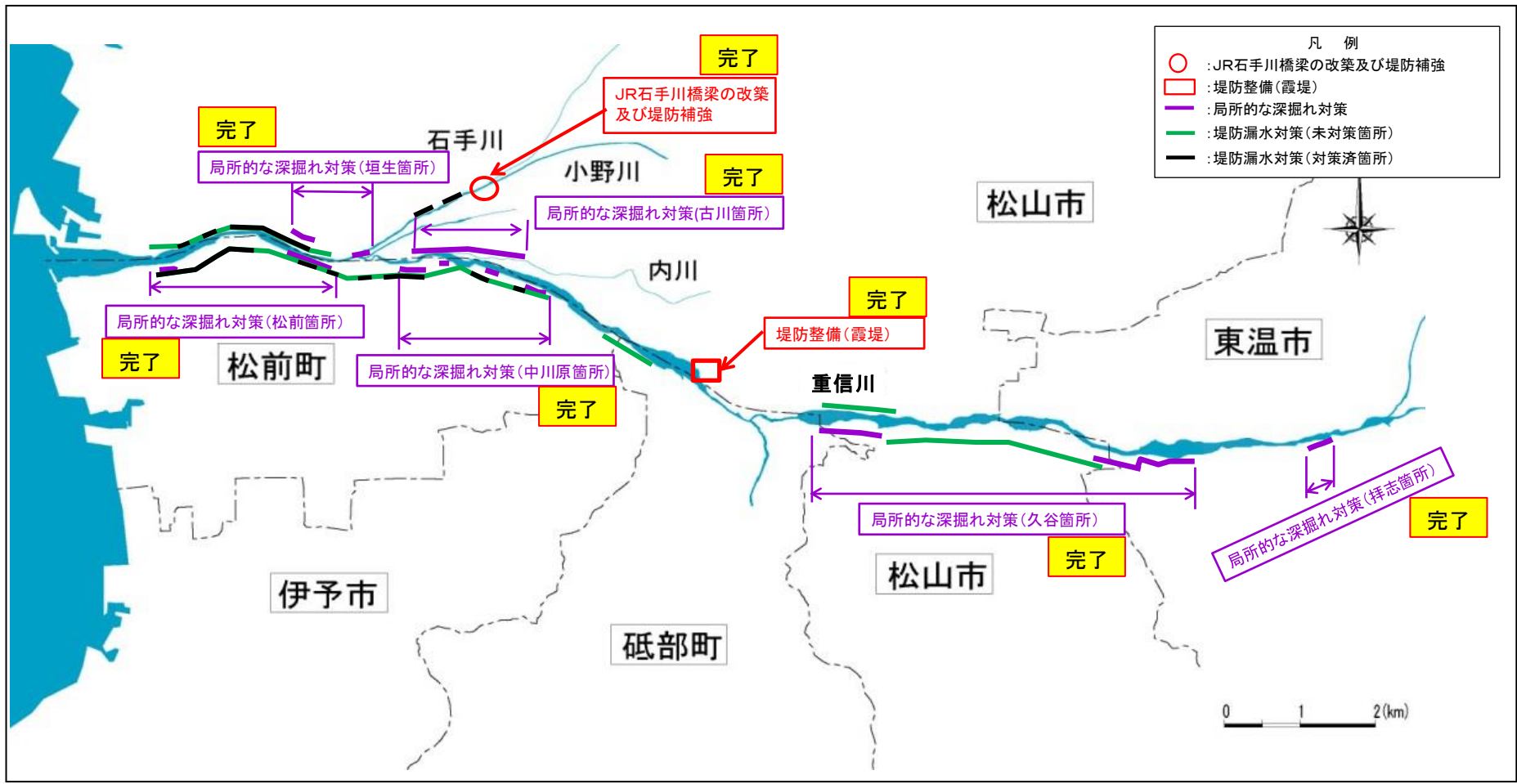
◆整備計画の対象区間

- 【①重信川】直轄管理区間 約17.2km
- 【②石手川】直轄管理区間 約3.3km
- 【③石手川ダム】直轄管理区間 約5.7km

◆整備計画の対象期間

おおむね30年。
河川整備の進捗、河川状況の変化、新たな知見、技術的進歩、社会経済の変化等に合わせて、必要な見直しを行うものとする。

河川整備計画の主なメニュー



国管理区間の河川整備計画の対象期間と整備目標

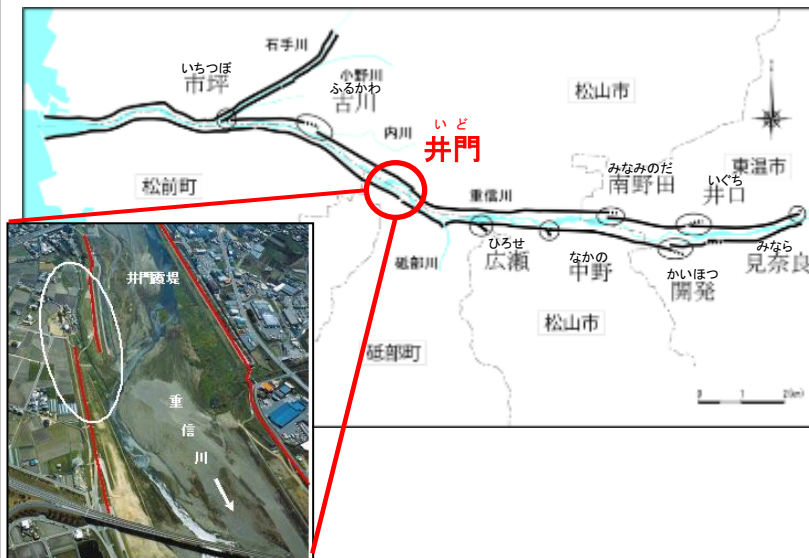
河川名	対象期間	整備目標(洪水を安全に流下させるための対応)
重信川	概ね30年	平成13年6月洪水と同規模の洪水を安全に流下させる。(出合地点目標流量2,500m ³ /s)
石手川	概ね30年	平成13年6月洪水と同規模の洪水を安全に流下させる。(湯渡地点目標流量550m ³ /s)

1. 堤防整備(霞堤)

洪水を安全に流下させるための対策

事業の概要

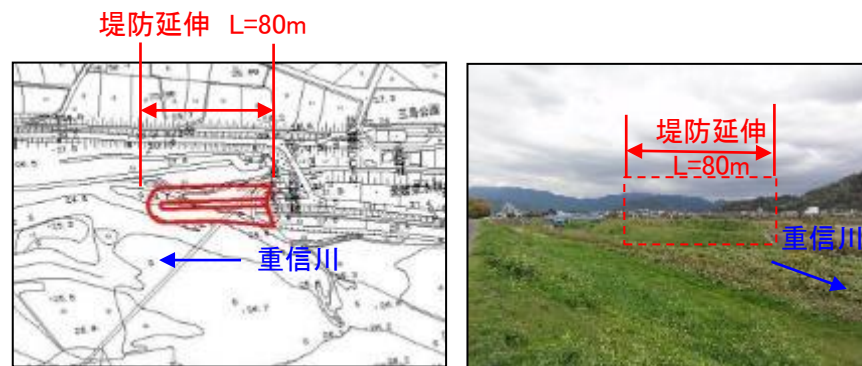
重信川は急流河川に用いられている歴史的な治水方式である霞堤が9箇所あり、そのうち5箇所(市坪、古川、井門、広瀬、中野)については、洪水水位が計画高水位まで上昇すると氾濫により家屋浸水被害が生じる恐れがあります。中でも「井門霞堤」は整備計画目標流量に対して唯一流下能力不足となっています。



整備計画の目標流量規模の洪水が発生した場合、「井門霞堤」では開口部からの氾濫により浸水面積約15ha、浸水家屋22戸が想定されるため、浸水被害の解消のため、本川の堤防を下流側に延伸(延長80m)する整備を行います。

実施と達成

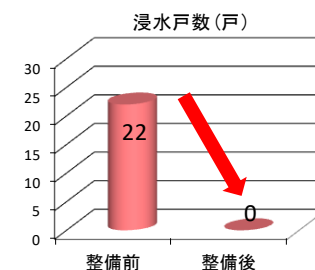
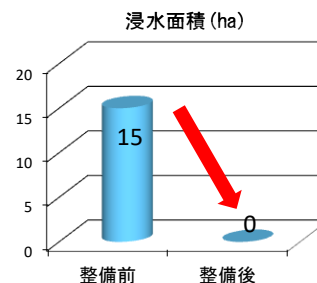
平成25年度に実施設計を行い、平成26年度に工事を実施し、平成27年3月に完成しました。



現地状況(R4.12時点)

事業の効果

井門霞堤の延伸の完成により、整備計画目標流量規模 $2,500\text{m}^3/\text{s}$ の洪水が発生しても、浸水被害(浸水面積約15ha、浸水家屋22戸)が解消します。



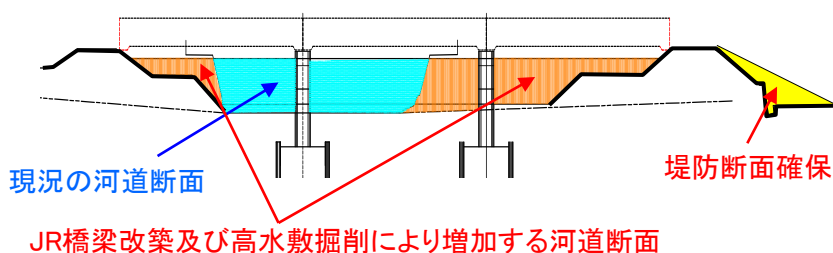
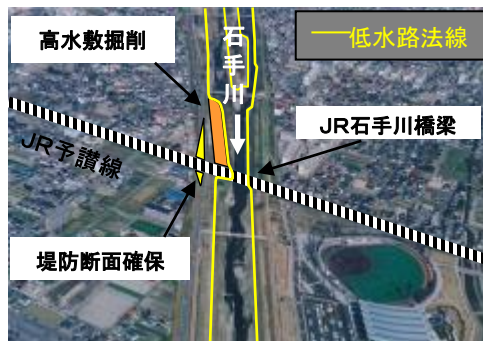
2. JR石手川橋梁の改築及び堤防補強

洪水を安全に流下させるための対策

事業の概要

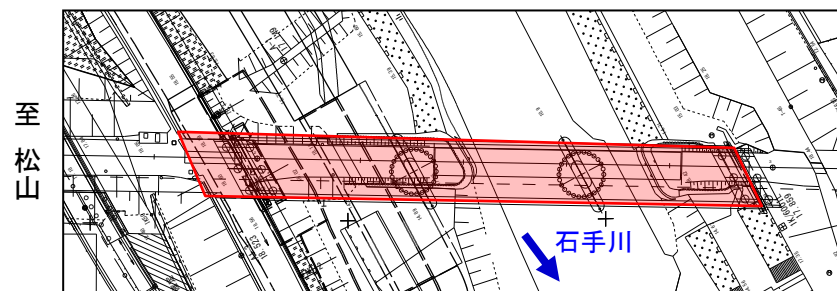
石手川は昭和20年より直轄による河川改修に着手し、JR石手川橋梁部とその周辺の河道区間のみが河道狭窄による流下能力不足となっており、堤防決壊時には松山市の中心部が浸水する被害が想定されます。

このため、JR石手川橋梁の改築(複線化)にあわせて、高水敷掘削や堤防断面確保により流下能力を確保します。



実施と達成

平成22年度に工事に着手し、平成28年度に橋梁掛け替えが完了し、平成29年度に高水敷掘削や堤防補強工事等を行い事業が完了しました。



現地状況(実施後)

3. 局所的な深掘れ対策

洪水を安全に流下させるための対策

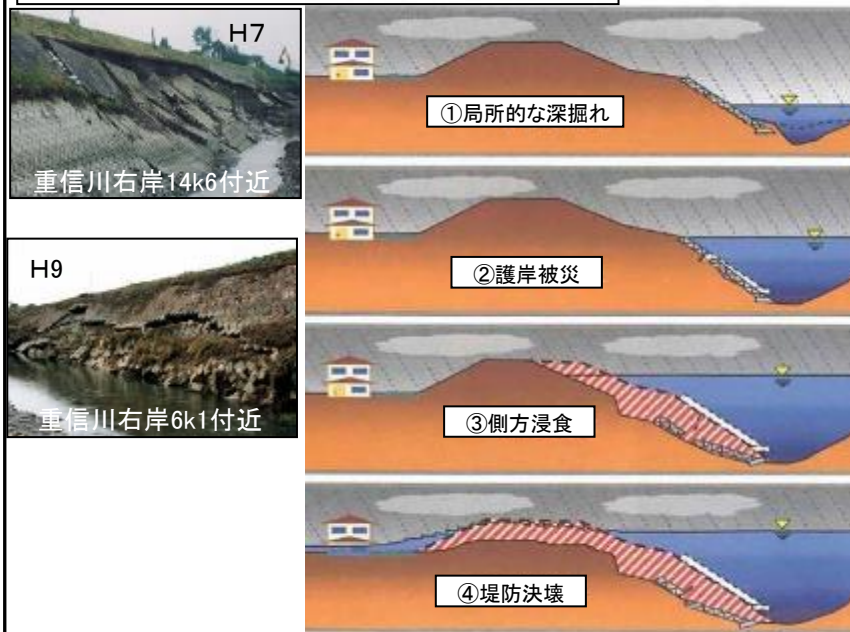
事業の概要

重信川は急流扇状地河川であり、洪水時には砂州の移動等により護岸前面で局所的な深掘れが発生し、既設護岸の基礎部が構造的に不安定となり護岸崩壊の要因となります。また、高水敷幅が狭い箇所では護岸の被災が堤防の決壊につながり、浸水被害が発生する恐れがあります。

そのため、想定される局所的な深掘れにより堤防が被災する可能性がある箇所について高水敷整備、根継工などの対策を実施し、壊滅的な浸水被害を未然に防止する必要があります。

局所的な深掘れに対して整備が必要な区間は24.1kmであり、このうち、被災履歴や被災規模、背後地の社会条件も考慮して、特に危険性の高い5.9kmを整備計画期間中に優先的に整備する区間として対策を実施します。

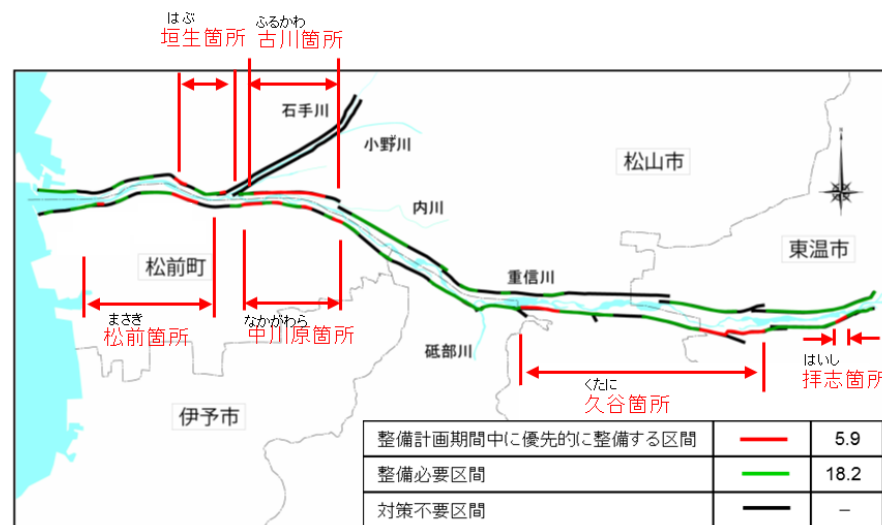
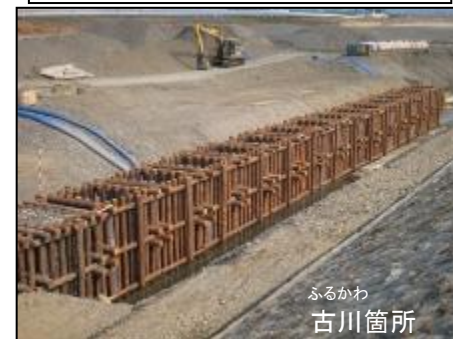
被災状況写真・局所的な深掘れイメージ図



実施と達成

局所的な深掘れ対策は、整備計画期間中に優先的に整備する区間のうち、堤防決壊が発生した場合に想定される被災ポテンシャルの大きさ、過去の被災履歴、局所的な深掘れの発生状況等を考慮して、優先度が高い区間から実施しています。古川・中川原・久谷・栺志・垣生・松前において対策済みとなり、優先的な整備区間5.9kmの対策を令和2年度に完了しています。

護岸根継(木工柵)施工状況写真



4. 大規模地震への対応

大規模地震による災害の発生防止又は軽減のための対策

事業の概要

南海トラフ巨大地震などのプレート境界型の地震等も含め、現在から将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震動(レベル2地震動)も想定に加えて堤防・樋門への影響を検討し、「施設計画上の津波」や「地震後の洪水」※により浸水被害が発生する場合は、必要な対策を行います。

想定する津波の考え方

①最大クラスの津波(レベル2津波)

- ・発生頻度は極めて低いものの発生すれば甚大な被害をもたらす。
- ・施設対応を超過する事象として扱い、津波防災まちづくりと一体となって減災を目指す。

②施設計画上の津波(レベル1津波)

- ・最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす。
- ・海岸における防御と一体となって河川堤防、津波水門等により津波災害を防御する。

※「地震後の洪水」とは、14日間に発生する確率が1/10の水位であり、これは近年発生した大規模な地震により被災した堤防の地震後の緊急復旧が、概ね14日間で完了していることを考慮して設定された水位です。

実施と達成

重信川において、基礎地盤の液状化により堤防が沈下した場合の堤防高さと「施設計画上の津波」や「地震後の洪水」の水位を比較検討したところ、堤防が沈下した場合においても津波等が堤防を越流しないことを確認しました。

また、国が管理する5樋門について、地震後にゲートの開閉性が保持されるか点検討したところ、3樋門について開閉に支障が生じることを確認しました。これら対策が必要となった3樋門については、平成24～25年度に補強対策を実施しました。



耐震対策実施状況 (H26.3)

今後の予定

地方公共団体と連携し減災に向けたソフト対策を検討します。

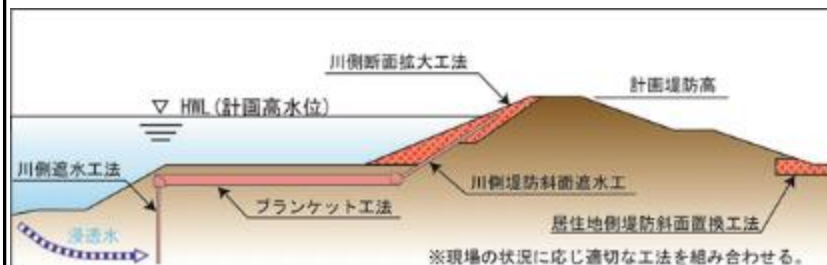
5. 堤防漏水対策

洪水を安全に流下させるための対策

事業の概要

重信川の堤体盛土材料は主に砂礫質土で構成されており、また、扇状地河川であるため、基礎地盤も砂礫質土となっています。砂礫質土は一般的に透水性が高く、洪水時に漏水発生により堤防の決壊を招き、氾濫被害が発生する可能性があります。

このため、河川堤防設計指針等に基づき、堤防の浸透に対する安全性の点検を行い、目標とする安全性が未だ確保されていない区間については、堤防の決壊や、これに伴い発生する氾濫被害の防止に向け以下のような対策を実施します。



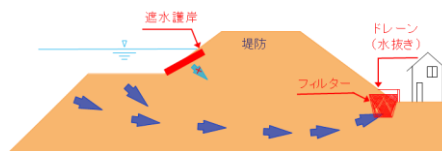
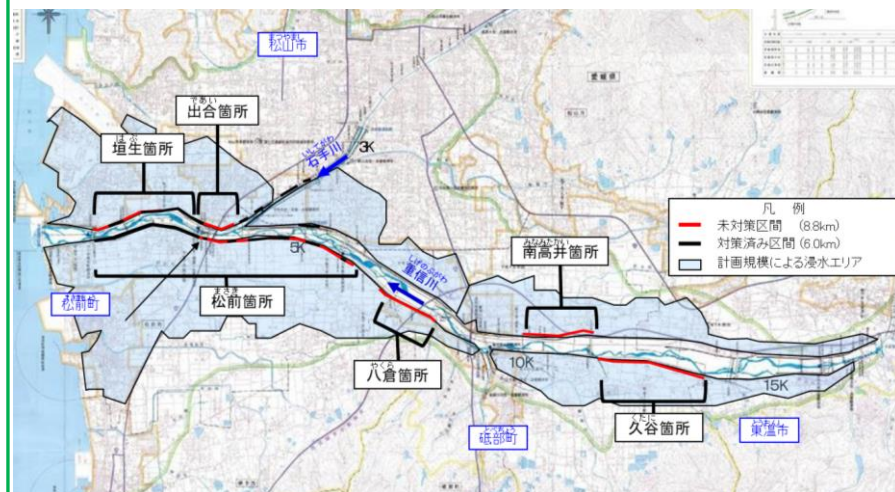
堤防漏水対策の工事方法の例

- 断面拡大工法**：堤防断面を透水しにくい材料により大きくして、河川水を浸透しにくくする。
- 堤防斜面遮水工法**：川側堤防斜面を護岸等により被覆することで、河川水を浸透しにくくする。
- ブランケット工法**：河川敷を浸透しにくい材料（主として粘土質材料）で被覆することにより、河川水が基礎地盤へ浸透しにくくする。
- 遮水工法**：川側堤防斜面下端等に止水矢板等により遮水壁を設置することにより、河川水が基礎地盤へ浸透しにくくする。
- 堤防斜面置換工法**：堤体の居住地側堤防斜面下端をせん断強度の大きい材料で置き換え、堤体の安定性を増加させる。

実施と達成

整備計画策定時(平成20年8月)には、実施区間までは明記されていない状況でしたが、平成29年9月洪水で漏水被害が多数発生しました。重信川堤防調査委員会で対策工法等の検討を行い、令和2年度の事業再評価で実施区間を位置づけ、対策を実施中です。

14.8kmの区間で堤防の強化が必要となり、これまでに6.0kmの対策が完了しています。



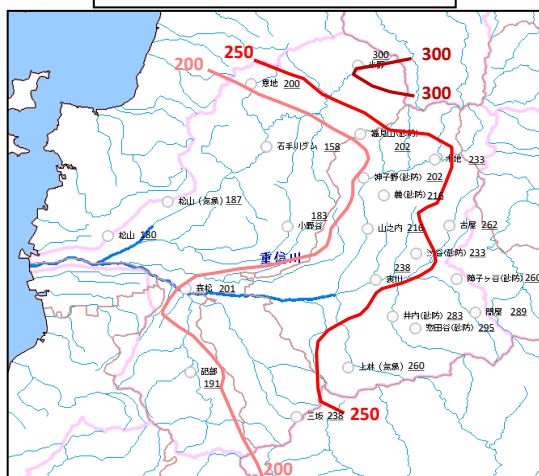
今後の予定

堤防漏水対策工事について今後も重点的に整備を推進します。

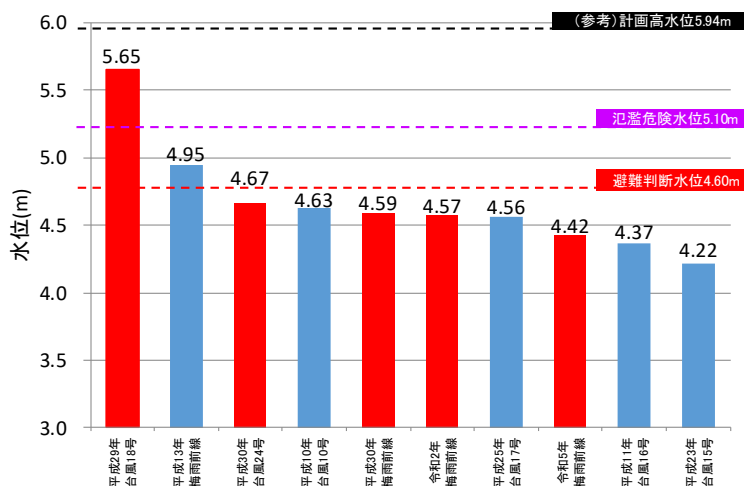
平成29年9月台風第18号の概要

- 台風第18号の影響により問屋雨量観測所(東温市)では、平成29年9月17日11時から21時迄に累加雨量289mmを観測し、出合基準観測所(愛媛県松前町)では、**氾濫危険水位を超過し、戦後最高の水位となる5.65mを記録**。
- 氾濫危険水位を超過することが予測されたため、事務所長→松山市長(代理:危機管理担当部長)、松前町長へ**ホットラインを実施し情報を詳しく伝達**。
- 氾濫危険水位を超過し、**緊急速報メールにより氾濫危険情報を3市2町の住民等に配信**。(プッシュ型配信)

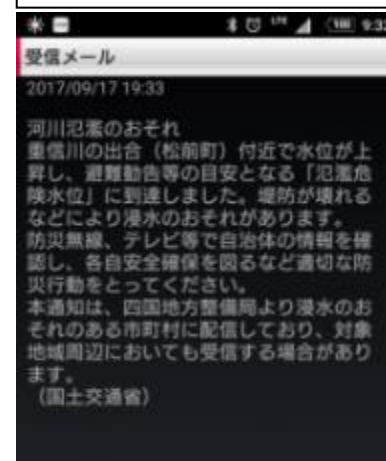
重信川流域の降雨状況



出合基準地点・観測水位 上位10洪水



緊急速報メール
(H29.5.1より運用開始)



重信川の出水状況



堤防の被災



平成29年9月台風第18号による被害

■重信川では、平成29年9月台風第18号の降雨により過去最高水位を記録したが、堤防整備の効果により氾濫による浸水被害は発生しなかったものの、多数の箇所でも漏水が発生した。

■被災箇所における発生要因の把握等を行うため「重信川堤防調査委員会」を設立。



重信川堤防漏水対策の進捗状況（令和7年3月時点）

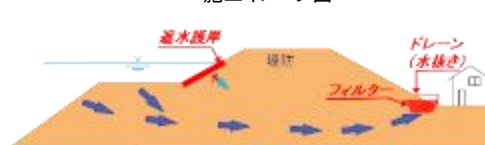
- 重信川における堤防漏水対策では、堤防調査委員会の意見を踏まえ対策工を検討し、川表のり面に遮水シート、川裏には堤内基盤排水工法を採用。
- 堤防調査委員会での検討の結果、対策が必要となった区間で整備を進める。
- 平成30年度に被災箇所の災害復旧工事が完了。

【重信川概要】

流域面積 445km²
管理延長 20.5km

漏水対策工事では川側に遮水護岸を設置し、堤防への水の浸透を軽減させるとともに、居住地側にはドレーン（水抜き）を設置し、堤防に浸透した水を安全に排水し、土の流出を防止する。

施工イメージ図



施工状況写真



凡 例

- 未対策区間（8.8km）
- 対策済み区間（6.0km）
- 計画規模による浸水エリア

対策必要区間	対策済み区間	未対策区間
14.8 km	6.0 km	8.8 km

であい
出合基準地点状況
（9月18日19時頃）

漏水対策工事では、川側に遮水護岸を設置し、堤防への水の浸透を軽減させるとともに、居住地側にはドレーン（水抜き）を設置し、堤防に浸透した水の速やかな堤体外へ排水や基盤部漏水の排水を行います。

<川側>

遮水護岸
(コンクリートブロック+遮水シート)

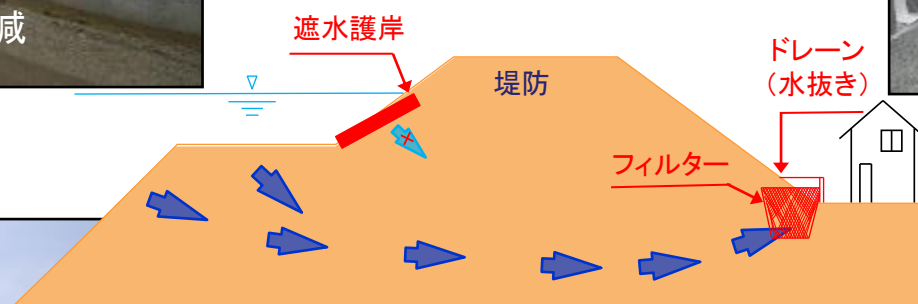
水の浸透を軽減

<居住地側>

ドレーン（水抜き）

フィルター材

堤防漏水対策工事
<施工イメージ図>



【完成】
覆土+張芝

【完成】
ドレーン+張芝

浸透した水を安全に排水

6. 水と緑のネットワークの確保(霞堤の環境再生、水辺植生の保全、再生)

動植物の生息、生育、繁殖環境の保全・再生

事業の概要

重信川では昔から、瀬切れが発生しており、魚類などの水生生物にとっては厳しい生息環境となっています。このような中で、重信川に流入する支川や霞堤の湿地、さらに周辺の水路や泉は、重信川と繋がる「水と緑のネットワーク」を形成し、重信川の厳しい生息環境を緩和する重要な役割を果たしてきました。

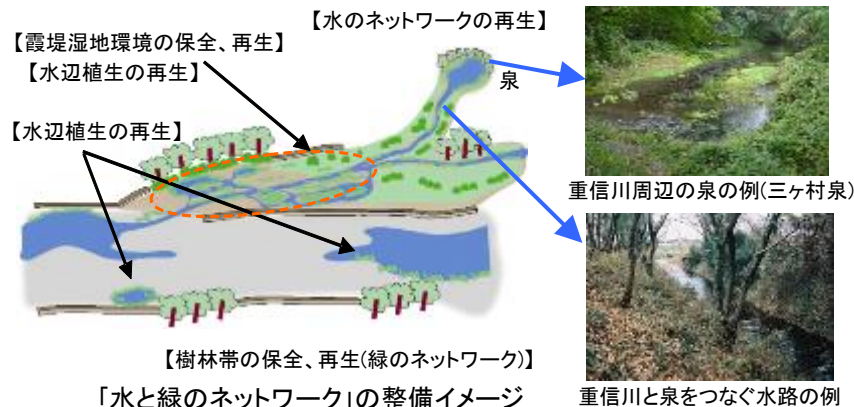
しかし、近年では、気象、水利用形態等の変化により瀬切れ区間・期間が拡大するとともに、泉の消失や霞堤箇所の湿地環境の喪失等により「水と緑のネットワーク」環境の悪化が進んでいます。

重信川自然再生事業では、かつて見られた「水と緑のネットワーク」の再生を目指し、地域・NPO・大学・行政で構成された「重信川の自然をはぐむ会」と連携し再生計画を策定しました。

泉や霞堤の湿地環境を再生し、多様な生物が生息・生育できる場所にします。



重信川の瀬切れ区間



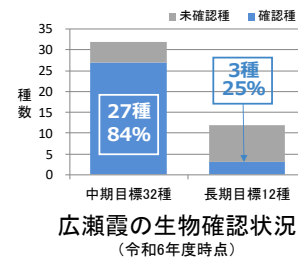
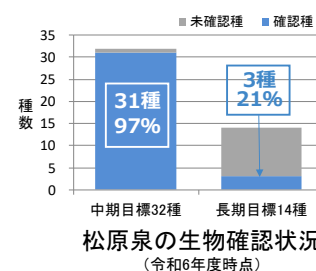
実施と達成

松原泉再生は平成18年度、広瀬霞再生は平成19年度、河口ヨシ原再生は平成23年度(一期)、開発霞再生は令和2年度に整備を完了し、それぞれの再生箇所でも多くの生き物が戻ってきました。

広瀬霞を例にとると、水域環境が形成された結果、ツルヨシ等の湿地性植物が生育するとともに、魚類や底生動物等が戻ってきました。さらにサクラタデやウナギ等の重要種も確認されるようになり、「水と緑のネットワーク」が形成されつつあります。



松原泉



広瀬霞

今後の予定

今後の事業内容についても検討を行い、引き続き「水と緑のネットワーク」の再生を目指します。

7. 河川空間の利用(重信川かわまちづくり)

河川空間の適正な利用促進を図る場の整備

事業の概要

河川空間の利用と整備について、地域の自然環境、景観を活用し、子供から高齢者までの様々な地域住民が川に親しみ積極的な自然体験活動や環境学習などの河川空間利用を促進するための河川整備に努めます。

重信川は松山市近郊に位置し、河川敷にはスポーツ広場や公園、ゴルフ場などとして、またいもたきなどのレクリエーション活動の場として子供から高齢者までの人々に利用されています。

そのため、地元自治体や地域住民、関係機関と連携、調整を図りつつ、適切な河川利用を推進します。



河川敷公園
(重信川 河口より7.8km付近砥部町側)



ソフトボール広場
(重信川 河口より7.6km付近松山市側)



中央公園橋上流

実施と達成

愛媛県では、しまなみ海道を中心に、全県域でサイクリング環境の充実に取り組んでいます。

重信川沿川もサイクリングロードとして更なる利活用を図るため、令和2年度から「重信川かわまちづくり」を実施しています。事業では、サイクリングロードとしても活用できる管理道の整備、橋梁等による分断箇所の解消、サイクルスタンド・ベンチ等の設置を行っています。自然体験の場や、利活用拠点、憩いの場として、既存の公園等をリバースポットとし、重信川全体の魅力向上を図ります。



今後の予定

既存の公園などのリバースポットを、管理道(サイクリングロード)により接続し、周遊できるように整備。また、重信工業団地前では、桜づつみと水辺の連続性を確保した高水敷の造成・緩傾斜堤の整備を推進します。

【事業概要】

愛媛県では、しまなみ海道を中心に、全県域でサイクリング環境の充実に取組んでおり、重信川沿川もサイクリングロードとして活用されています。この取り組みの充実を図るため、かわまちづくりとして、「自然と人、人と人との出あいの場、重信川」をコンセプトに、橋梁等分断箇所の解消等により、回遊性の向上を図るほか、サイクルスタンド・ベンチ等の休憩施設の充実、自然体験の場や、民間事業者を誘致し、水辺のオープンカフェ等を運営するなど拠点を設け、サイクリングロードとしてのさらなる魅力の向上を図り、河川空間を活用した地域の観光振興の促進を目指します。

拠点①：河口



拠点②：出合



観光地



凡 例	
	：拠点整備箇所
	：川とまちとのつながり
	：既存遊歩道・サイクリングルート
	：新規遊歩道・サイクリングルート
	：自然再生箇所

整備中/
整備予定

拠点⑥：松原泉



拠点⑧：重信工業団地前 [整備中]



高水敷整備（令和6年12月）

拠点③：中央公園



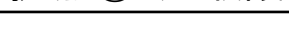
拠点④：徳丸公園



拠点⑤：赤坂泉公園



拠点⑦：広瀬霞



拠点⑨：かすみの森公園



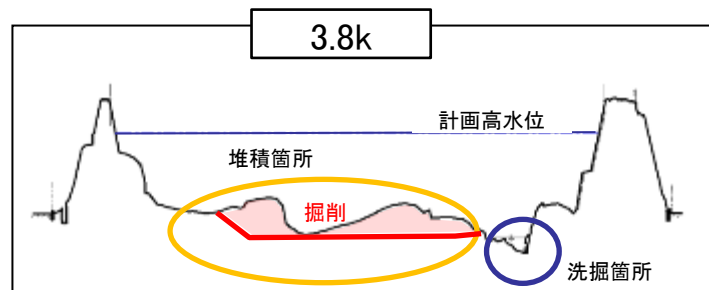
8. 河床の維持掘削、整正

河川の維持管理

事業の概要

重信川は発達した砂州の影響により、みお筋が固定化され、洪水時に偏流が発生し、護岸崩壊や河岸侵食等の被害が発生しています。

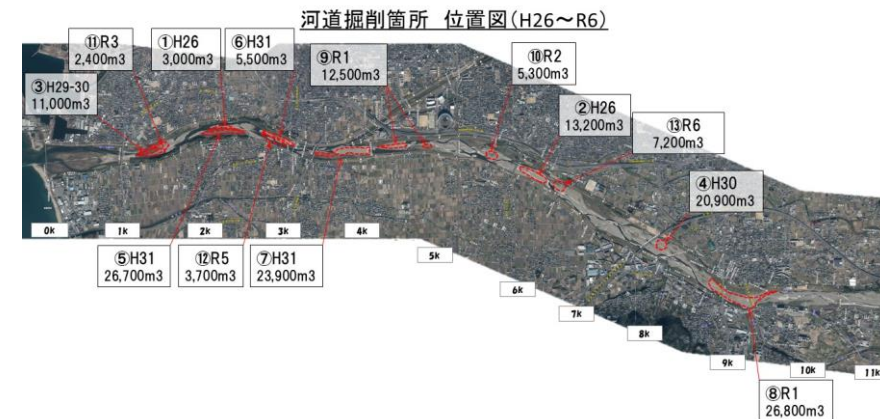
そのため、局所洗掘防止と流下能力の維持を目的として、定期的に維持掘削及び河床整正により、砂州の固定化防止を図っています。



河床の維持掘削、整正のイメージ

実施と達成

平成26年以降において実施された維持掘削及び整正箇所は以下の図のとおりです。また、掘削した土砂は河道内の敷均し、高水敷整備等に有効利用しています。



今後の予定

今後も、局所洗掘防止や流下能力を維持するため、河川巡視や航空写真、河川縦横断測量等の定期的なモニタリング結果を踏まえ、適切な河道管理に継続して取り組みます。

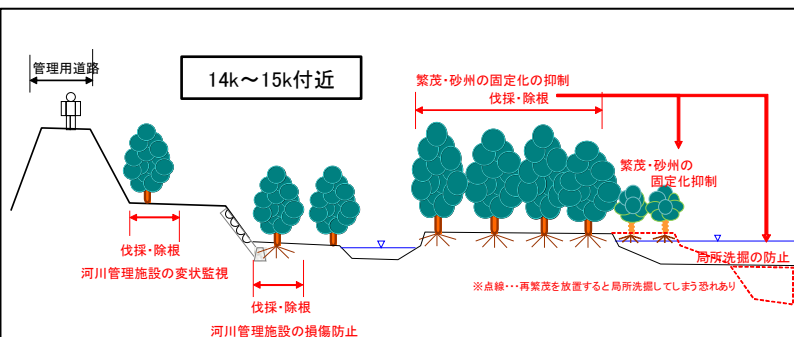
9. 樹木伐採の実施・伐木処理

河道内樹木の維持管理

事業の概要

重信川の樹木伐採は堤防、護岸、根固め等、河川管理施設の損傷防止、変状監視、砂州の拡大(繁茂)防止のため実施しています。

また、伐採箇所は原則以下の考え方を基本とし、現地状況に応じて実施しています。



◆伐採予定箇所の状況(R6年度実施予定)



樹木伐採の考え方

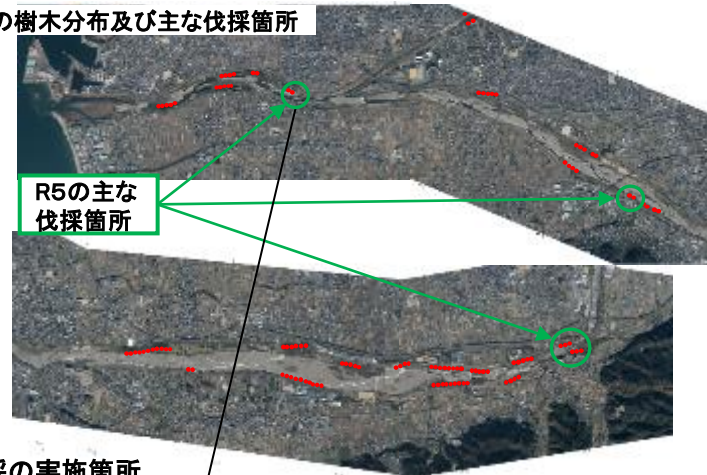
河川内の伐採木は、運搬処分費のコスト削減、再利用の促進を図るため、可能なものについては、幹・枝等を地域住民に提供しています。

また、バイオマス発電の燃料として民間事業者に利活用してもらう取り組みについても推進しているところです。

実施と達成

令和5年度において実施された主な樹木伐採箇所は以下の図に示すとおりです。伐採木は、地域住民に提供してコスト削減と再利用の促進を図っています。

令和5年の樹木分布及び主な伐採箇所



樹木伐採の実施箇所



今後の予定

今後も、河川管理施設の損傷防止、変状監視及び砂州の拡大(繁茂)防止のため、河川巡視や河川縦横断測量等の定期的なモニタリング結果を踏まえ、適切な樹木管理を継続して取り組みます。

10. 流木処理や堆砂掘削の実施

ダムの維持管理

事業の概要

石手川ダムでは、貯水池の水質保全や、放流施設の機能確保、ダム貯水容量の確保を目的に、貯水池上流での流木処理や堆砂掘削を実施しています。

また、除去した流木や堆砂については、有効利用の観点で流木の無償配布や公共事業への積極的な利用を実施しています。



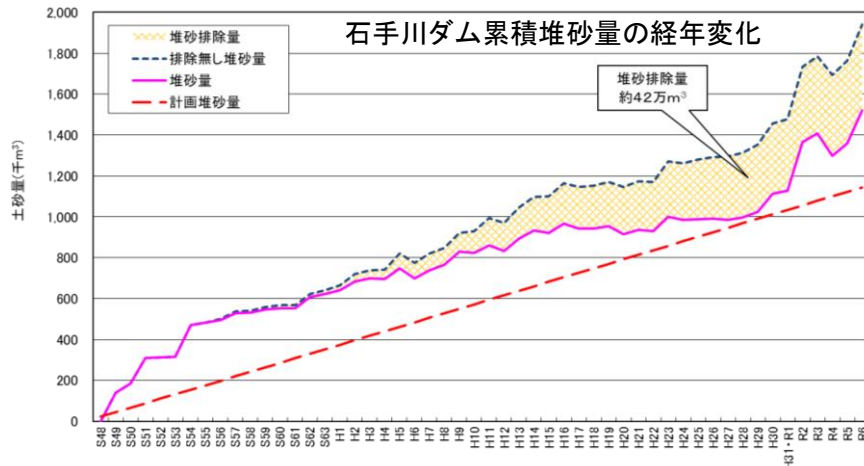
今後の予定

今後も、適切な維持管理を行うとともに、除去した流木や堆砂については有効利用に努めます。

実施と達成

堆砂については、管理移行後51年が経過し、計画の約1.7倍の土砂が流入し堆砂が進行しています。発生した掘削土については、東温市工業団地整備事業等への活用を図るなど、有効利用を行っています。

流木においても、有効利用の観点で令和6年12月に約30m³の流木を地域のみなさまへ無償配布を行いました。



掘削土の有効利用(他事業への搬入状況)



流木無償配布の状況

11. 河川の適正な利用及び正常な機能の維持

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持のための対策

事業の概要

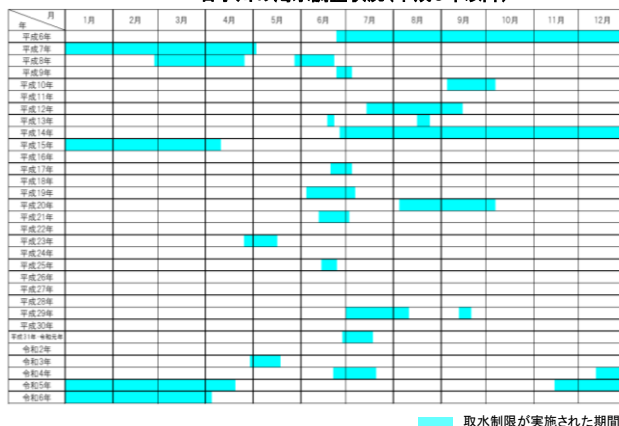
(1) 適切な流水管理

都市用水や農業用水の安定取水と流水の正常な機能を維持するため、河川の水量、水質、地下水位を把握し、適切な流水管理に努めます。

(2) 渇水への対応

渇水による取水制限は、地域住民の生活や社会活動等に影響を与えることから、河川管理者、利害関係者及び関係機関が連携し、「石手川渇水調整協議会」等を通じ、流況等の情報を共有し水利用に関する調整を行います。

石手川の渇水調整状況(平成6年以降)



平成6年9月石手川ダム
底水ゼロ

(3) 水質保全

1) 重信川・石手川

河川利用状況、水利用状況、現状の環境を考慮し、地域と連携しつつ中流域の良好な水質保全と下流域の水質改善に努めます。

2) 石手川ダム

石手川ダムでは、関係機関相互で組織する「石手川ダム水質保全協議会」等を通して従来からの対策とあわせ、新たな対策の検討も行い、流入負荷軽減が着実に進むよう支援します。また、湖内にある既存の水質保全施設の改良や最適な運用方法の検討を行い、水質異常の発生の抑制に努めます。

実施と達成

(1) 適切な流水管理

河川水及び周辺地下水の状況及び水質の調査、魚類等の生物調査を行い、利水、動植物の生息環境及び流水の清潔の保持について状況把握しています。

(2) 渇水への対応

令和5年度、「石手川渇水調整協議会」により、石手川ダムの貯水状況や流域地下水の状況などの情報を共有し、取水量の調整を行って渇水被害の軽減を図りました。

(令和6年度は協議会開催なし)



令和6年1月 石手川渇水調整協議会

(3) 水質保全

1) 重信川・石手川

河川水質調査及び河川空間利用実態調査を実施し河川の状況を把握するとともに、既設水質浄化施設等の適切な運用により水質の改善に努めています。



石手川上流域の河川清掃

2) 石手川ダム

「石手川ダム水質保全協議会」では、石手川上流域の住民を中心として河川清掃、草刈り、植栽などの河川美化活動を行っています。

今後の予定

今後も、河川及びダムの水質や利用実態の調査を行い状況を把握するとともに、協議会や地域の人々との連携・協力により、既存施設の適切な維持管理を継続して行います。

12. 河川の適正な利用及び正常な機能の維持

- 重信川は、日常的に瀬切れが発生しており、表流量と伏流量の関係、みお筋の変化の激しい河川での動植物の生息・生育に必要な流量を把握できておらず、正常流量の設定に至っていません。
- 正常流量の設定に向けて、河川内での湧出・伏流の特性や泉を含む水利用の実態を把握するため、令和4年度から水収支観測を実施しています。

●重信川水系河川整備計画(平成20年8月)P89

3-5 河川の適正な利用及び正常な機能の維持に関する目標

(1) 流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能を維持するために必要な流量(以下、「正常流量」という)については、利水の現況、動植物の生息、生育、繁殖環境、流水の清潔の保持等を考慮して、出合地点付近でおおむね $2\text{m}^3/\text{s}$ 程度と想定されるが、それ以外の区間についても流水が伏流している現状やみお筋変化の激しい河川の特性と動植物の生息、生育繁殖に必要な環境との関係や、表流量と伏流量の相互関係の解明など、必要な調査、検討を行う。

<河口から13k付近の状況写真(令和4年8月29日撮影)>



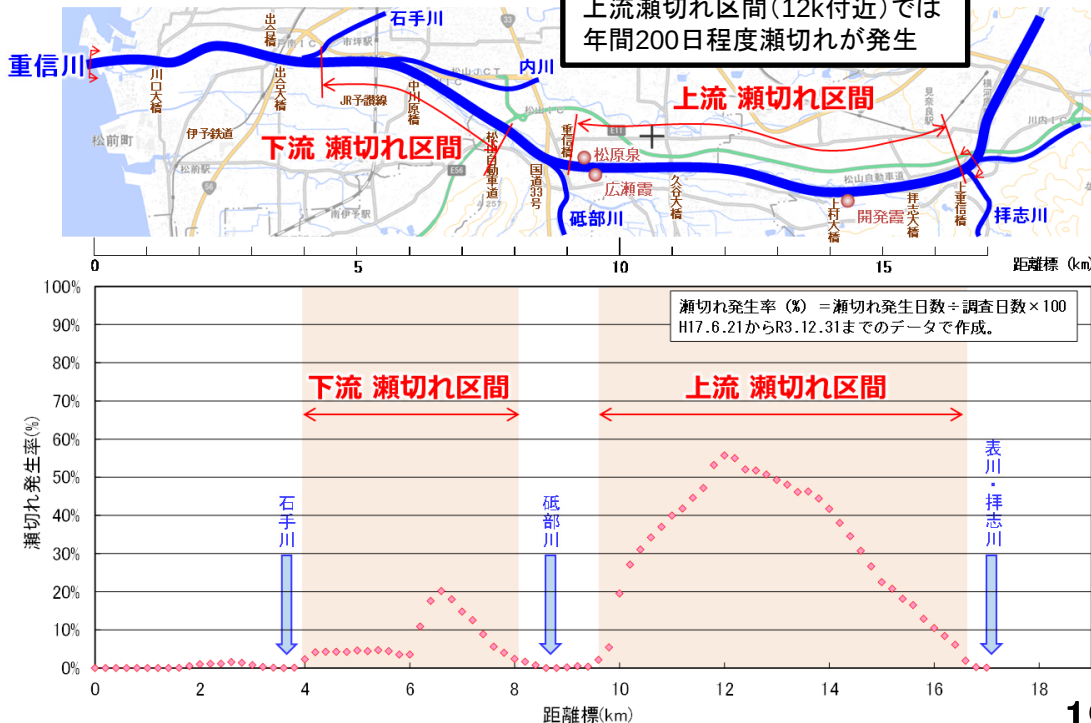
瀬切れの発生状況

<重信川沿川の泉の存在>



河川に表流水はないが、堤内地側の泉には水があり、かんがい用水等に利用されている。

<近年の瀬切れ発生状況>

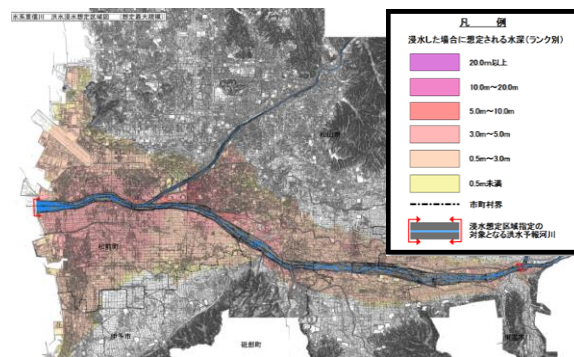


- ・防災教育関係
3D動画等を活用した防災教育
防災教育の連携（松山市・愛媛大学）
- ・重信川かわまちづくり
第3回重信川かわまちづくり推進協議会
- ・第25回 重信川フォーラムの開催
- ・ミズベリングEHIMEの取組
重信川シクロクロス in 東温市

水害リスクのわかりやすい情報提供ツールを活用した防災教育

- 洪水が発生した場合の自発的な避難行動を促すことを目的に、水害リスク(洪水浸水想定区域図)のわかりやすい情報提供ツール(3D動画等)を作成。
- 地域の小中学生等を対象に、「わかりやすい情報提供ツール」を活用した防災教育を通じて、川の防災情報を得ることの大切さについて学習。

■重信川洪水浸水想定区域図



よりわかりやすく

防災教育の実施状況



360度動画



バーチャルツアー



VRを活用した3D動画

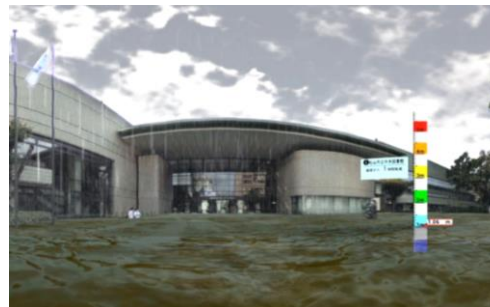


立体ディスプレイ

わかりやすい情報提供ツールのコンテンツ

●360度動画※

代表的な箇所がどのように浸水するか把握が可能で立体的に見ることができる。



●バーチャルツアー

代表的なルートで、自由に場所や視点を変えて浸水イメージを確認できる。



●VRを活用した3D動画

VRを活用し、実際に浸水状況の把握や空間内部の移動ができる。



●立体ディスプレイ

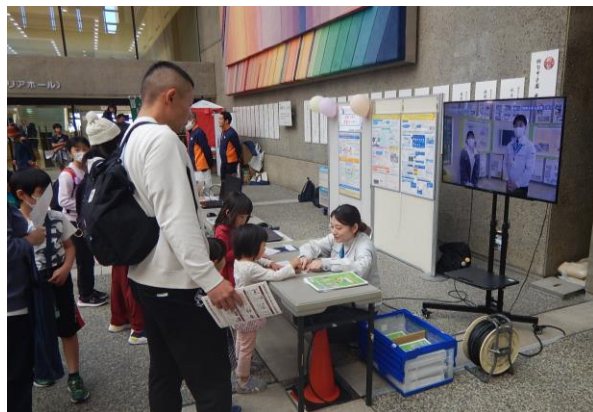
空間再現ディスプレイを使用し、裸眼による立体視技術で洪水想定を把握できる。



防災教育やイベント等において「わかりやすい情報提供ツール」を活用。



- ◆イベント：職場体験
- ◆開催日時：令和6年8月～9月頃（重信川流域の学校 5校）
- ◆場所：松山河川国道事務所4階 災害対策室、重信川河川防災ステーション 等



- ◆イベント：みんな消防フェスタ・防災シンポジウム
- ◆開催日時：令和6年11月9日(土) 10:00～15:00
- ◆場所：松山市総合コミュニティセンター

- ◆イベント：安心・安全ふれ愛フェア
- ◆開催日時：令和6年10月20日(日) 10:00～14:00
- ◆場所：エミフルMASAKI

- 令和6年6月23日(日)に、重信川を題材として防災について学習する「まるごと防災体験」を実施。
- 重信川での災害のリスク把握、洪水時の情報収集方法などを3D動画・AR・VRなどで体験学習。
- 災害対策拠点となる松山河川国道事務所の建物の免震構造についての勉強・現場を視察。
- 重信川の現地で流量観測の計測の仕方について学習し、実際に計測と計算を行った。

◆主催者：松山防災リーダー育成センター

◆参加機関：愛媛大学、国交省

◆開催日時：令和6年6月23日(日)13:00～15:30

◆場所：松山河川国道事務所 災害対策室・地下階、重信川出合箇所

◆参加人数：小学生～中学生 30名程度(一般応募)



防災情報の体験学習 (左:○×クイズ 右:立体ディスプレイ体験)

土のうづくり体験



流量観測体験

開催概要

- 開催日時：令和6年10月1日（火）（WEB併用）
- 出席者：学識者、民間団体、国交省、愛媛県、自治体など（構成員18名中、参加者数14人）
- 議事内容：
 - 1.これまでの重信川かわまちづくり推進協議会での意見
 - 2.新たなサイクリングモデルコース・ガイドの作成及び自転車と歩行者の共存におけるルール・マナーの作成について
 - 3.重信川かわまちづくり整備箇所の積極的な利活用について
 - 4.石手川のかわまちづくり検討案について

意見交換での主な意見

- サイクリングロード
 - ・サイクリングを通じて地域の魅力を発見・発信できる人材を育成を目的に、自転車甲子園(主催:県)を実施しているがイベントの素晴らしさをもっと発信してほしい。
- 重信川かわまちづくり整備箇所の積極的な利活用について
 - ・左右岸が両岸を走れるようにすると周回できるメリットがある。周回しやすいような整備や人がよく訪れるような場所を作ってほしい。
- 石手川のかわまちづくり検討案について
 - ・石手川は中心市街地から歩いていける距離にあるため、自治体やアーバンセンター、商店街との連携をお願いしたい。

重信川かわまちづくり推進協議会 構成員名簿

	所属	役職
行政機関	松山市 都市整備部	道路河川管理課長
	東温市 産業建設部 都市整備課	技監兼都市整備課長
	松前町 産業建設部	まちづくり課長
	砥部町	建設課長
	愛媛県 観光スポーツ文化部	自転車新文化推進課長
	愛媛県 中予地方局 建設部	建設企画課長
	愛媛県 中予地方局 地域産業振興部	地域政策課長
有識者	松山東雲女子大学	石川和男 名誉教授
	愛媛大学	矢田部龍一 名誉教授
	愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科	松村暢彦 教授
	愛媛大学大学院理工学研究科	三宅洋 教授
	愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科	羽鳥剛史 教授
市民団体等	Vertマルシェ	
	サイクルショップフィールド社	
	NPO森からつく道	
	松山白鷺ライオンズクラブ	
	松山商工会議所	
事務局	国土交通省 四国地方整備局	松山河川国道事務所 副所長



※自治体は代表部局が参画し、必要な内容は各自治体内で共有。

開催状況

重信川の豊かな自然を取り戻そうと、NPO団体や地域の大学、学生、住民、行政がひとつとなって「重信川の自然をはぐくむ会」を設立しました（平成15年1月）。その活動の一環として、本フォーラムでは重信川に関する様々な活動・研究についての発表及び意見交換を行い、重信川の防災、河川環境、地域連携などについて考える機会としています。

開催概要

- 開催日時： 令和 7年 1月 27日（月） 14：30～16：30
- 場 所： Great Sign 坊っちゃん劇場（東温市見奈良）
- 主 催： 重信川の自然をはぐくむ会
- 出席者： 学識者、民間団体、高校生、中学生、愛媛県、自治体、国交省など 約100名程度

発表内容

- (1) 重信川を対象とした環境・防災教育の取組について
(松山市立椿中学校)
- (2) ジュニア防災リーダークラブの活動に関して
(愛媛大学松山防災リーダー育成センター 中山洋平 様)
- (3) 重信川河口部及び塩屋海岸における活動報告
(伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム)
- (4) えひめのブルーカーボン里海づくりモデル事業による重信川河口生物相調査について
(愛媛県、NPO法人西条自然学校)
- (5) 東温市民ミュージカル「人と川と祈りと ～重信川伝説～」について
(アシスタントプロデューサー、市民キャスト・スタッフ 様)
- (6) 重信川に育まれた東温市の名勝
(愛媛大学名誉教授 高橋治郎 様)



聴講の様子



松山市椿中学校の皆さん



伊予農業高等学校の皆さん



東温市民ミュージカルの皆さん

～重信川のミズベリングの取組～

瀬戸内シクロクロスシリーズ第四戦 重信川シクロクロス in 東温市

○日時：令和7年1月12日（日）8:30～16:00

○場所：かすみの森公園（東温市管理：河川占用箇所）

○規模：かすみの森公園の一部を利用してコースセッティング、参加者数 200人

（開催に対する各管理者の対応）

○公園管理者（東温市）：かすみの森公園での開催許可、高水敷の駐車場利用の許可

○河川管理者（国土交通省）：河川環境の啓発活動、ピン・コーン等の備品貸出、高水敷除草

